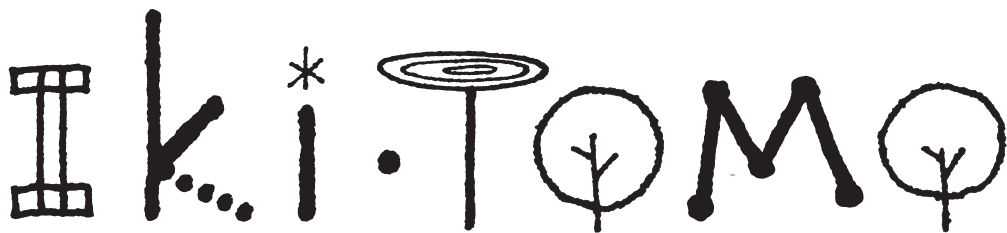
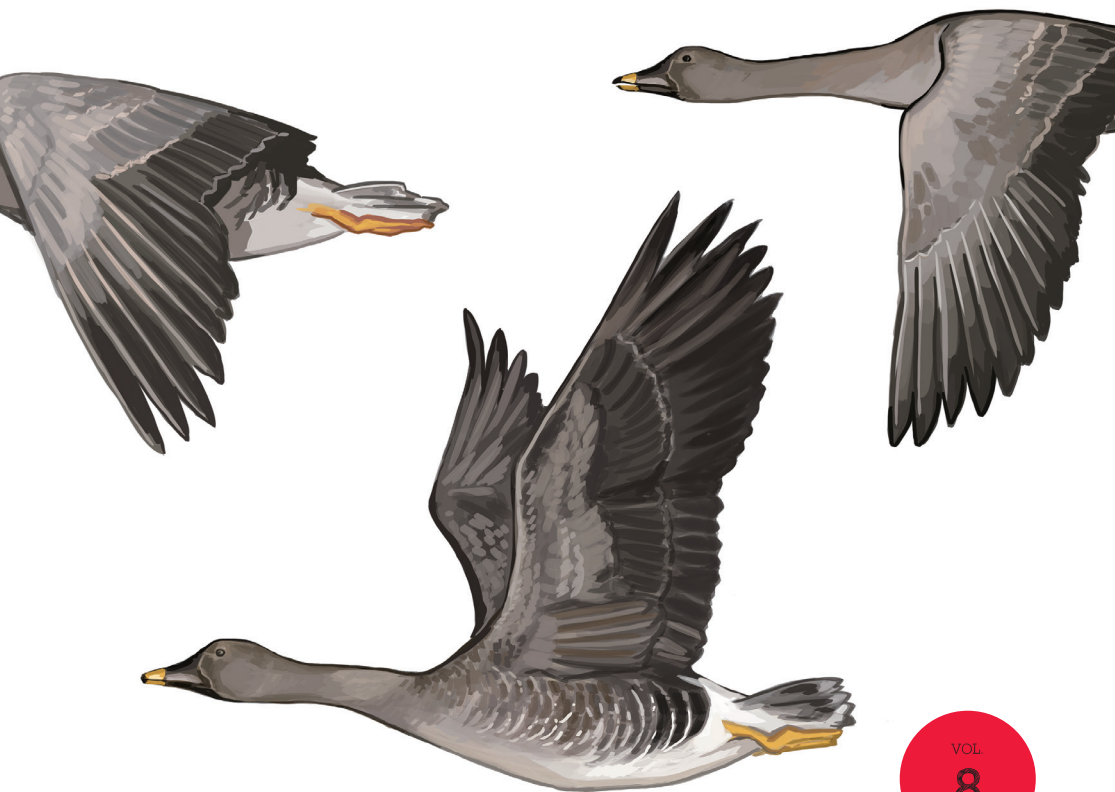


地球のいのち、つないでいこう

生物多様性



自然の恵みを感じる生物多様性マガジン 「イキトモ」



VOL.

8

AUTUMN
2014

旅と生物多様性

生物多様性と旅してみよう。

旅先で食べたあの魚、自然の美しい風景、
地元の野菜でつくられたお土産…。
すべては旅で出会う、自然の恵み。

自然の恵みは各地の生物多様性から生まれます。
旅の魅力である感動的な風景や食事、
異文化との出会いは生物多様性に深くつながっています。
旅することで生物多様性を感じることができるのです。

生物多様性を守るために行動することは、
難しくとらえられがちですが、
まずは生物多様性との関わりを
暮らしの中でとらえ、身近なところから
行動することが第一歩。

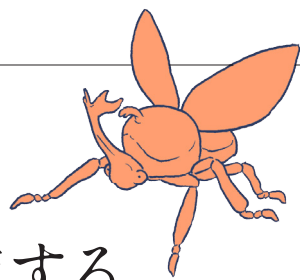
自然のすばらしさを友達にメールする。
ボランティアの旅に参加する。募金に協力…。
旅をととしてできる生物多様性を守ること、
実はいろいろなアクションがあります。

さあ、
生物多様性と旅してみませんか。



5つのアクション

旅でできる生物多様性を守るための行動を5つピックアップしました。
生物多様性の恵みを受け続けられるように、実践してみましょう。



上／春の山菜（タケノコ、ワラビ、タラ等）。
下／穫れたてのウニをたっぷり使ったウニ丼。

たべます

TASTE
IT!

旅先で食べる、その土地特有の料理やスイーツは旅の大きな楽しみです。そこでとれる野菜や果物、魚、肉、米はすべて自然の恵みです。近くの農地や漁場も生き物たちにとって大切なすみかです。また旬の食材を味わうことで、昔から日本人が大切にしてきた季節感を感じることができます。

地域でとれた
ものを食べ、
旬のものを
味わいます



ありのままの自然を体験し、
動物園、植物園などを訪ね、
自然や生き物にふれます

ふれます

TOUCH
IT!

都会で生活し、自然に触れる機会が少ない人は、生物多様性を感じる感覚が鈍くなっているのではないかと、言われています。旅先で海や山、街の中の緑でも、生の自然に触れ、生き物に触れることが、生物多様性について考えるためには大切なのです。

上／青森県八戸市の蕪島。写真提供：八戸市。
下／JR 東日本八戸線、三陸海岸を走る列車。



たなかりつこ 生物多様性の広報組織「地球いきもの応援団」メンバー。2008年よりNPO法人「アクアプラネット」理事長としてサンゴ礁の再生活動を行う。
<http://www.aqua-planet.org>



INTERVIEW

「サンゴの再生は海への恩返し」

田中律子 さん (女優)

Q 田中律子さんはどんな旅をしていらつしやいますか？
A 海ばかりですね。サーフィン、ダイビング、スタンドアップパドルなど、好きなものがすべて海にあります。こんなにも素晴らしい海があるのは沖縄、一番好きです。
Q 海の楽しみとは？
A クマノミなど熱帯魚がたくさんいて、美しいサンゴ礁が広がるのを潜るのは、本当に素敵です。最近は遊びではなく、サンゴの移植ダイビングばかりになっています。初めて沖縄の海に潜ったのが30年ほど前。その頃から比べると7割くらいのサンゴが減ってしまってます。
Q サンゴ再生の活動をされていらつしやいますね。
A テレビの撮影でサンゴの移植をされている方にお会いして、当時はおひとりやってらつしやったので、すぐにお手伝いす

る約束をしました。サンゴ再生のNPO法人を立ち上げて、8年になります。陸地で育てたサンゴの苗をボランティアダイバーが植え付けを行います。温暖化などで、海自体の環境が変わり、移植は難しいこともありすが、何もしないよりはいいんじゃないかと。今年は水槽で育てたサンゴが産卵する様子も見られて感動しました。
Q 伝えることも大切ですね。
A こういう仕事をしているのでテレビやラジオ、ブログなどで伝えることができます。移植ダイビングに参加してくださった方には、サンゴの現状を友達に最低5人には伝えてね、とお願ひしています。伝えることで、残すだけでなく、原因は何なのか、私たちに何ができるのかを考えていくことができるかと思っています。楽しませてもらっている海への恩返しです。



その地域にしかない
環境に優しいお土産を
選んで買います

宮城県大崎市鳴子エリアの伝統けし。首をまわすと音が鳴ることでも有名。

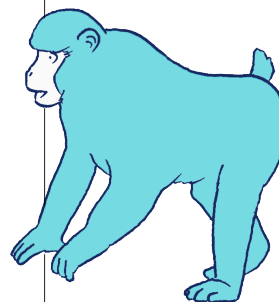


TELL IT!

つたえます

旅で出会った息をのむ自然の風景、季節によって彩りを変える森や草花、生き物などを写真に撮ってみる、描いてみる。感動を家族や友人に伝えることで、自然の素晴らしさに気付くきっかけを作ることができます。

自然の素晴らしさや
季節の移ろいを感じて、
写真や絵、文章などで伝えます



KEEP IT!

まもります

えらびます

CHOOSE IT!

大切な人へのお土産選びもひとつ。例えば、トキやコウノトリのことを考えて作られたお米やその加工品。地域の農水産物や加工品、伝統的な工芸品など、地域で作られた自然にやさしいお土産を選びましょう。それが旅を楽しませてくれた地域への恩返しになり、思い出話にも花が咲きます。

生き物や自然、人や文化との
‘つながり’を守るため、
地域や全国の活動に参加します



青森県の夏の風物詩、ねぶた祭。

自然をまもる活動と結びついた旅も増えています。自然を体験するツアーや、地域の方のガイドによるツアー、伝統文化や祭りの体験。ボランティア活動と組み合わせた旅もあります。決められた地域のルールをまもることも旅人だからできることです。

生物多様性のことを多くの人に
知ってもらうために、2012年9
月に旗揚げした様々な団体のキ
ャクターによる広報組織です。

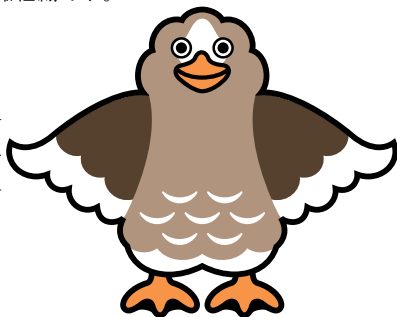


生物多様性 キャラクター応援団

～全国のキャラクターからのおしらせ～

バタ崎さん

(宮城県大崎市)



カモ科の渡り鳥マガンが
飛来する宮城県大崎市は
自然がいっぱい。シベリ
ア生まれの渡り鳥の男の
子、バタ崎さんが温泉や
おいしいものなど、大崎
の魅力をリュックに詰め
て、日本中をバタバタ飛
び回って伝えています。

<https://ja-jp.facebook.com/futufutukiyowakoku.osaki>

認定連携事業



生物多様性を守るために連携して取り組んでいる
事業を認定し、広報活動を行っています。

『JTB 地球いきいきプロジェクト』

株式会社ジェイティービー

お客様や地域の皆様
とJTBグループの社
員が一緒になり、元気な未
来を創造していく活動です。
観光地をめぐりながらお掃
除をしたり、地域の文化を学びながら植樹をしたり、
環境美化や人と人との交流を通じて、そこに関わる全
ての方々とともに「地域を元気に、人を笑顔に」して
いきたいと考えています。



© Aya Uruguchi

http://www.jtbcorp.jp/jp/csr/social_contribution/clean/index.asp

※このプロジェクトは、1985年から続く「観光地クリーンアップキャンペーン」を
2012年のJTB創立100周年を機に改称したものです。

100

「生物多様性の本箱」から ～みんなが生き物とつながる100冊～

生物多様性の理解や普及啓発の
ために UNDB-J 推薦「子供向け図書」を
選定しています。



『森に行こうよ!』

文 = C.W. ニコル
絵 = 松岡達英
監修 = 田中康夫
出版 = 小学館

森 はたくさんの命を育み、私
たちの生活を支え、やすらぎ
を与えてくれ、生きものたちの命の
ドラマあることを教えてくれる絵本
です。著者のC.W. ニコルさんは地
球いきもの応援団のメンバーに任命
されています。

http://www.shogakukan.co.jp/books/detail/_isbn_4097276611